

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002 東京都国立市東1-4-20-102

TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

2013年1月 (No. 7)

今月の聖句

イエスは一人の子供を呼び寄せ、彼らの中に立たせていわれた。

はっきり言うておく。ここ利ウイ入れ替えて子供のようにならなければ、

決して天の国に入ることはできない。自分を低くしてこの子供ようになる人天国で一番偉いのだ。

マタイによる福音書18章2節—4節

主題

国際会長	Poul V. Thomsen	「全ての世界に出て行こう」
アジア地区会長	岡野 泰和	「未来を始めよう、今すぐに」
東日本区理事	渡辺 喜代美	「いざ立て」
あずさ部長	藤江 喜美子	「心を一つに あずさ部号前進」
武蔵野多摩会長	伊佐 節子	「健康第一！ちょっとだけ無理して頑張ろう！」

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAにつくそう
1. 世界的視野を持って国際親善をはかろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさたろう
1. 出席第一と奉仕第一とを旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

12月出席率 在籍者11名 出席者10名 メネット1名 メイキャップ0 ゲスト3名 出席率90%

謹賀新年

伊佐 節子

昨年5月、山口直樹会長のもと東京武蔵野多摩クラブの30周年記念例会開催後の会長就任で安心でした。

引き受けてみたものの会長はやっぱり大変な仕事です皆様に助けられて、やっと半期が終わりました。

10月に若い渡邊大輔氏の入会があったことが最大の喜びでした。

今年度は、2月15日にDBCの神戸学園都市ワイズメンズクラブの20周年記念例会が開催されます。

4月にはIBCのTsim Sha Tsui Men's Club (香港) の32周年の記念例会があります。

兄弟クラブと手を取り合って頑張りたいと思います。「健康第一！ちょっとだけ無理して頑張ろう！」

“行く年来る年”冒頭は、くしくも大槌町からでした！

いつも手を貸してくださるもりおかクラブ 井上ワイズ、今回はメネットと二人のお孫さん同伴、宮古ボランティアセンター木田・斉藤 Y、それにユリ・リトミックの3人の先生。そして心に残った、春を感じるのは「わかめ」海を友に生きてきた方々の言葉！

大槌町仮説住宅訪問記

我がクラブの、大槌町仮説住宅での音楽イベントは4回目です。短い滞在期間に、数か所の仮設住宅の集会場や談話室をお借りして、被災された皆さんと触れ合いの時間を過ごしています。

大槌町は、「ひよっこりひょうたん島」のモデルとされる蓬莱（ほうらい）島が目海にある町で、8割が海辺の町に住んでいらしたそうです。人口の1割以上が震災で亡くなり、6割の家屋が被災し、人口に占める犠牲者の率は、宮城県女川町、岩手県陸前高田市とほぼ並び、被災市町村の中でも飛びぬけて高かった所です。

大槌町は、大槌、小槌（大槌は木偏、小槌は金偏）吉里吉里、安渡・・・と地域に分かれています。町の中心部はすべてなくなり、仮設はどこも、山道を上った高台にあります。現在仮設住宅には、約1/3の町民が4畳半一間で暮らしていて、基本的に平日の午前中と午後でイベントを行うため、参加して下さる方々は、お仕事を持たない、外に出る機会の少ない年配の方が多くなります。



大槌湾の「ひよっこりひょうたん島」

～

高台から見た、現在の
大槌町
中心部（2013.12）



この3年の間で、沢山の方にお目にかかりました。皆さんの笑顔で迎えて頂いておりますが、現状を考えるとつらい気持ちにもなります。でも、一緒に過ごしながら、少しでも気持ちのやわらぐ時間を過ごして頂き、この現状を、私たちがより多くの方に伝えていくことで、少しでも早い復興の力にと願っています。

私は子ども達の音楽活動にも力を入れています。子ども達がやがて町を支え、国を支えてくれる人材になると信じて、音楽を通して人の気持ちのわかる人に育てて欲しいと心から願っています。皆さんに幸な毎日が1日も早く訪れますように。

石丸 由理

012年12月、2013年6月、12月と続けて3回、私は石丸由理先生とバイオリンを担ぎ、被災地大槌町の仮設住宅を訪れました。

初めて大槌町に入った時は瓦礫が全部片づけられていて静かな海と山、そしてあとは何も無し。持ち主のいない建物の残骸が所々。工事の車だけが走り、人のいない光景にあ然としました。…皆に会いに来たのに 人はどこ？…

無機質な地割番号で分割された仮設住宅を探し回り、山の細い道をどんどん入っていく車。海に生きている人たちがどうしてこんな山の中に…。

ようやく探し当てた番号の仮設住宅は、まるで荷物コンテナをつなげただけに見えました。

ショックでした。でも集まってくれた方々は皆温かく、仲間意識が強く、優しく、応援に駆け付けてくれた盛岡ワイズ、YMCA 宮古ボランティアセンターの方々の協力もあって、楽しい時間を過ごし、皆さんに喜んで頂けた手ごたえを感じました。

今回のクリスマス訪問では、仮設を去った人もいるかわりに、もう行き場もなく残されてしまった人のあきらめのような空気を感じ、音楽ボランティアの我々も いつも以上に心に寄り添う音楽を選曲する責任を感じました。でも大槌の皆さんは気持ちがやさしいし何より「今までいろんな団体が音楽をやりに来てくれたけど、今日のが一番楽しかった！」とわざわざ言いに来て下さった時、“私にもお役に立てることがあるんだ”と涙が出そうになりました。

石丸先生に同行して、思いがけずワイズの方々とは知り合いになれた事をうれしく存じます。

また機会があったら是非お手伝いさせてください！

石塚 みどり

新幹線が新花巻に近づくと雪が舞ってきました。

釜石線を乗り継ぎ釜石に着くと、荒れる海を想像していましたが、とても穏やかな深い藍色の海。

ひょっこりひょうたん島に続く道は、まだ手すりもない状態でしたが震災前を思いながら渡りました。

ユリ・リトミック教室では震災後楽器を集め、子供たちやお母さん、ワイズの方など、たくさんの方に協力して頂き、楽器を磨き、小学校や幼稚園・保育園に届けてきました。

当たり前にあった音楽が、離れた私たちでさえ音をだすのにしばらくとまどった震災。

今回仮設住宅を訪れ、一緒に音楽や歌を楽しみましたが、被災地で演奏するから、歌うからこそ感じる重みを実際に感じずにはられませんでした。

9月のセプテンバー・コンサートでも石塚先生がバイオリンで演奏したエルガーの『愛の挨拶』。今回の演奏は多くの気持ちを紡いで全く違うものでした。

そして石丸先生考案の音楽とクイズの融合は、子供からお年寄りまで楽しめる内容で、さりげなく入ったリトミックの要素は大人の方もリズムによって挑戦されて、笑顔がたえませんでしたね。

暖かく迎えてもらった釜石ですが、山の奥にある仮設住宅からはなかなか出かけることはできないそうです。日常と少しでも違う時間を過ごしてもらい、人や音楽と触れる時間をもっといただけたかなと思っています。

あるお年寄りは海で季節を感じていたと話してくれました。穏やかな春が早く訪れることを願います。

為我井 香苗

12月24日～26日、もりおかワイズの井上ご夫妻と小学4年生、5年生のお孫さんたち、そして宮古ボランティアセンターの方々と一緒に岩手県上閉伊大槌町の仮設住宅を4箇所回り、仮設にお住まいの皆さんとお目にかかり、音楽イベントをして来ました。

クリスマスの時期でしたので、前半はクリスマスのクイズを解きながら、クリスマスソングを、バイオリンとキーボードの音色に合わせて歌いました。2013年のニュースを取り上げ、キーワードを使って、歌ったり動いたり…。始めは皆さんも少し緊張しながらのスタートでしたが、自然に場が和み、だんだん笑顔になり皆で「わっはっは」と笑ってしまう場面もありました。後半は四季の歌を歌いながら1年を振り返りました。

ある仮設住宅で“幼なじみ”の曲を歌った時、今まで笑顔だった女性が、涙を拭いている姿を目にしました。

参加して頂いた方とお話をしていた時、「ここに居るのはあと何年かしらね」とお一人が言うと、「最低3年かな？いや5年はかかるかな？」「こうして笑っているけれど、考えると心の中は不安でいっぱいなんだよ」と仰っていました。復興が進んでいるとは言え、仮設住宅から出て、各自の暮らしを取り戻す日が来るのは、まだまだ先の見えない状態だからだと思います。

東京へ戻る前に、大槌町が一望できる、城山へ行きました。震災の日、自分の町、家が津波にのみ込まれていくのを、ここへ避難していた人々は見ていたそうです。町を見下ろすと、穏やかな青い青い海と、その向こうに空が広がり、手前に津波の跡がくっきり分かる剥き出しの土が、大きく広がっています。このきれいな海が、ここにあった全てのもの

をさらってしまったのです。

今は、所々でトラックが土を運び、盛土の作業をしています。この地域は2m地盤沈下してしまったようで、その分の土を盛ってからでないと建物が建てられないそうです。しかし土の山は見ると脆そうで、例えその上を固めても素人目にはとても頼りなさそうに感じました。その上、この広さです。仮設の方が「あと何年かしらね」と言っていたのは、こういう状況を見て出てしまう言葉なのかもしれません。

仮設住宅での皆さんとのふれあいや、音楽のイベントが、少しでも皆さんの心やわらぐ時間になり、次の活力になれるようにと願いながら過ごしていました。

伊藤 静香

<西東京 YMCA 便り>

鳩山 徹郎

年明け、いかがお過ごしでしょうか。かなり寒い時期であることも相まって、何とも身の引き締まる思いを感じます。普段はあまり会えない方々との年賀状でのご挨拶、久しぶりにみんな集まる家族のご挨拶、お互いの近況を伝えあう時間はとても日本人的で暖かいなと感じます。まだまだ寒い日々が続きますので、体調など崩されませんようにご自愛くださいませ。

さて YMCA ではこの冬の時期、たくさんスキーキャンプを実施しました。なぜスキーキャンプを行うのか？そこには理由がいくつかあります。キャンプの特色と併せてお伝えいたします。

まず、スキーを行う環境です。雪の降る寒い山、遠く見渡せる山々、冷たい雪、全てが自然の偉大さを感じさせます。スキー場では天気が驚くほど急に変わります。吹雪になり前がほとんど見えなくなったかと思えば、風がやみ太陽が顔を出します。自分の力ではどうすることも出来ない大きな力を感じるわけです。また、スキーというスポーツが、子どもたちが健全に育っていく上でとても教育的で有効な手段であることがあげられます。怖くて滑ることが出来なかったある斜面も、数日のレッスンを経て滑ることが出来るようになります。スキーは、上達が目に見えて分かりやすく、上達したことを体感しやすいスポーツなわけです。「うまく出来ない」「失敗した」と感じる事が多い日常ですが、スキーは「出来た！」「上手になった！」と感じる機会がたくさんあります。それが参加者の自己肯定感を育てるわけです。

春にもスキーキャンプを実施予定です。ぜひ、特色ある YMCA のスキーキャンプをご支持いただき、応援下さい。今月もお支え、お願いいたします。

<西東京センター及び東京 YMCA の主な予定>

- | | |
|---------|---|
| 1/4 | 中高生グループ活動「TEENS」1月例会 |
| 1/6 | 東京 YMCA 始業礼拝 |
| 1/11 | 在京ワイズ会長会、新年会 |
| 1/19 | 知的障がい児・者 余暇活動「あおぞら・つばさの会」1月例会
軽度発達障がい児 野外活動「Smile」1月例会 |
| 1/22 | 春季プログラムリーダーキックオフ&リーダートレーニング |
| 1/24-26 | リーダーOBOG 対象スキー実技トレーニング |
| 1/25-26 | 幼児野外活動「にこにこ」小学生野外活動「ロビンソン」合同一泊会
どきどき雪遊びキャンプ |
| 1/26 | 知的障がい児・者 余暇活動「シャベルズ・いずみの会」1月例会 |

<2月例会>

2月5日(19時) 西東京センター 司会山本 聖書小坂 受付宮内・松田の各ワイズ

卓話「世界と日本の YMCA のユース育成」YMCA 同盟 永岡美咲氏 今年はおールメンバー平均目線の若返りから。

